

東南アジアで激発するナス科作物の DNAウイルスによる被害

新大陸原産のナス科作物にはトマトやトウガラシが含まれ、これらは世界中で栽培・利用されている重要な園芸作物である。東南アジアにはトウガラシを香辛料として食事に多用する国々があり、インドネシアでは温暖な気象環境の下、一年を通じて露地栽培が行われている。しかし、近年栽培圃場においてウイルス病の蔓延が起きており、生産上の大きな問題になっている。ジェミニウイルスによる被害は日本においても急速に拡大していることから、インドネシアで起きていることは対岸の火事ではなく、対策を講じるための知見の収集が必要である。本発表ではスマトラ島北部における被害の実態を報告し、今後の取り組みについても紹介したい。（報告者要旨より）



小枝 壮太 氏

(京都大学 大学院農学研究科)

日時: **2014年10月17日(金)16時~**

場所: **京都大学 総合研究2号館**

4階大会議室(AA447)

HERE !

参加費・事前登録は不要です。
皆様、奮ってご参加下さい。
また、会后には懇親会を予定しております。

<お問い合わせ先>

小坂: 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

kosaka[at]asafas.kyoto-u.ac.jp

柳澤: 京都大学地域研究統合情報センター

masa[at]cias.kyoto-u.ac.jp

